

# 姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

# ニュース

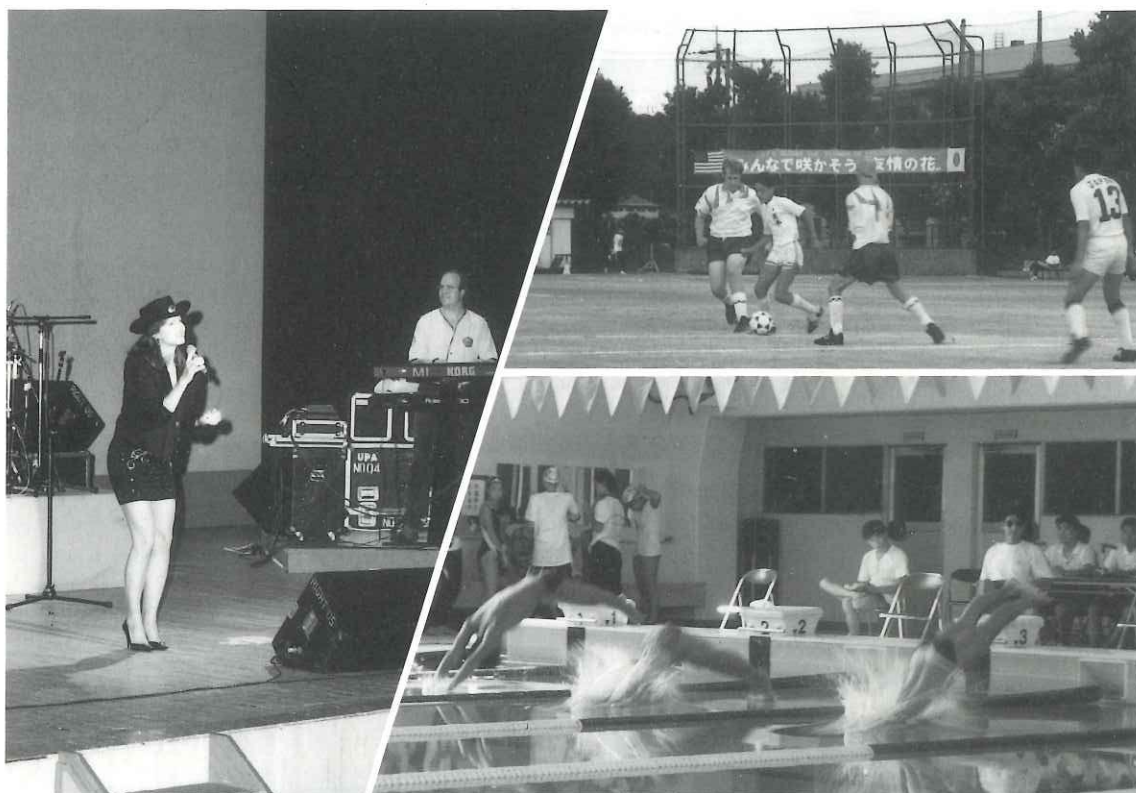
協会報

第 19 号

平成 4 年10月30日発行

編集・発行

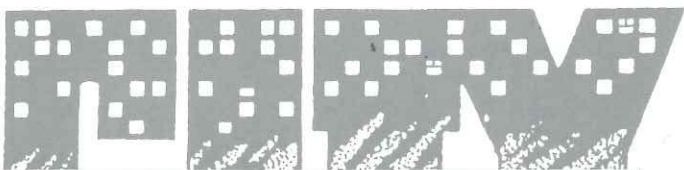
茨木市国際親善都市協会



夏の交流スナップ3点(左)「シティー・キャッツ」公演(上)サッカー試合(下)水泳交流大会

## 目次

- 「シティー・キャッツ」茨木公演 ..... P 2
- ミ市サッカーチーム健闘 ..... P 3
- 安慶市水泳・卓球チームー待望の来茨 ..... P 4・P 5
- ミネソタ州日本語村ー本市から2名のカウンセラー参加 ..... P 6
- ミ市文化協会が俳句コンテスト、10月の訪問団報告 ..... P 7
- 協会総会の報告、安慶市研修生ー来る人・帰る人 ..... P 8



▲ 茨木フェスティバルの観客を魅了  
◀ キャシー・ミュラーさんの熱唱

## 「シティー・キャッツ」茨木公演

### 茨木フェスティバルを賑わす

姉妹都市ミネアポリス市から、カントリー、ブルース、ジャズ、ポップス等あらゆる音楽をこなすマルチ・ミュージック・グループ「シティー・キャッツ」が7月30日から8月5日の日程で本市を訪れ、茨木フェスティバルでの野外コンサートと2回、そして、茨木市市民会館（ユアアイホール）大ホールでのコンサートを開催し、みなさんお馴染みの「スタンド・バイ・ミー」やオズの魔法使いの「サムホエア・オーバー・ザ・レインボー」などで聴衆を魅了しました。

同グループは、デイリー・クイーンやキャンベルのスープなどの商業的ソングを歌っているキャシー・ミュラー（リードボーカル）、優れたボーカルとパーカッションによって数々のミネソタ音楽賞を受賞しているスコット・ネルソン（ボーカルとパーカッション）、そしてコココーラの商業的ソングを作曲して国際テレビ映画フェスティバル賞を受賞したマーク・ミュラー

（キーボード）の3人で構成されたグループです。

茨木市内では川端文学館や中央図書館を訪れ、夏休みで大勢の子供達に、グループのメンバーは思わずカメラのシャッターを押してしまう場面もありました。その他、生花展やお茶会に

参加し、京都では、金閣寺、二条城等を訪れ、日本の文化・歴史を探索しました。

また、ミ市文化協会（MICCA）の発行する「ニューズレター」に、グループを代表してスコット・ネルソンが、「茨木の人々は、その文化について多くのことを私達に教え、私達は自分自身について多くのことを学びました。」と報告しています。



川端文学館を見学





サッカー親善試合(2)

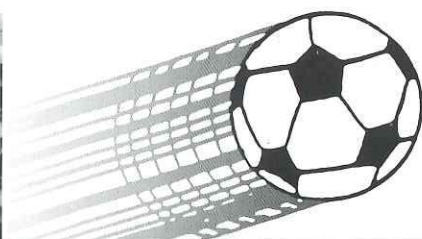
茨木の中学生は過去4回、米国ミネソタ州で開催される国際青少年サッカー大会「USA杯」に参加していますが、毎回、ホームステイやミネアポリス市内見学などを引き受けてくれている、茨木チームのホストチーム「メイプル・ブルック少年サッカーチーム」が今年8月6日から9日間、茨木を訪問しました。

到着の翌日、市役所へ表敬訪問をした後、早速サッカーの親善試合が始まりました。

第1試合は北青少年運動広場で、1990年USA杯に参加した茨木チームとナイター試合を、また、第2試合は好天の東青少年運動広場で、茨木選抜チームと戦いましたが、いずれも旅の疲れから敗れています。

10日と11日は、「茨木市民サッカー大会(中学生の部)」に参加し、三島中学校と対戦した1回

三市サッカーチーム好試合を逃す



バスケットボールの熱戦

戦は、接戦となり、2-2の引分としましたがPK戦で惜しくも敗れました。また、翌日は太田中学校と交流戦を行い、これも接戦としましたが、健闘むなしく0-1で敗れました。

その他、8日には市民体育館で、茨木の中学生選抜チームとバスケットボールの親善試合を行い、熱い汗を流しました。

訪問団は全日程、市内の家庭でホームステイし、ホストファミリーの親身の世話を受けました。また、ホームステイ家庭と一緒に弁天宗本部を訪れ、夜空に打ち上げられる壮大な花火の芸術に感激し、一生の思い出を作りました。

そして、14日朝、協会関係者、ホームステイ家庭、サッカー関係者などの見送りを受け、次の訪問地長崎へ向かいました。



(左)北青で (上)さようならパーティーでの合唱

# 安慶市 **水泳** **卓球** チーム、待望の来茨



## 第2市民プールで熱戦 市民体育館

安慶市スポーツ友好代表団が去る9月1日から8日までの間、本市を友好訪問しました。

安慶市からのスポーツ訪問団は今回が初めてで今まで2度にわたる本市からのスポーツ訪問(1989年、1991年)に応じて、来茨が実現したものです。

一行は、殷幼華副市長を団長に、中学生の水泳選手12名、卓球選手5名、関係者7名の総勢25名からなる代表団で、揃いのユニフォームで大阪空港に到着後、旅の疲れも見せず、市長・議長を表敬訪問しました。

翌日は、川端文学館と新設の中央図書館を見学し、午後からは第2市民プールで2日間にわたる水泳交流大会に参加しました。開会式では、福田助役・殷団長の挨拶、両市選手代表の挨拶、ペナント交換の後、男女それぞれ11種目の競技に入りました。

結果は、全種目で茨木が1位を独占しましたが、安慶市の選手は一人で数種目に出場するなど、各種目で健闘し、友好試合は楽しく進められました。



### 交流試合を通して

西陵中3年 牧山 洋一

「スポーツには国境はない。」この言葉がすごく感じられた、安慶市とのスポーツ水泳交流試合だったと思います。

開会式の挨拶で「言葉や文化は違うけれど」と言ったものの、最初は、本当に交流試合ができるだろうかと不安に思っていました。

しかし、始まってみれば、実に楽しく、盛り上がった試合でした。レースが終われば、握手をしたり、写真をとったり、身振り手振りで話をしたりして、今までの試合とは違った、本当に楽しい交流になりました。

選手には、とても思い出深い試合になったと思います。たとえ、住むところや言葉が違って、スポーツを通じて交流ができたことをとてもうれしく思っています。

今後も、このような姉妹都市との交流試合がますます増えることを期待しています。

最後になりましたが、交流試合を運営して下さいました役員の皆様にお礼を申し上げます。



試合後みんなでプールに飛び込んで





和気あいあいとさようならパーティー

競技終了後は、出場した選手全員でプールに入り、安慶選手を囲み、水中に友情の花を咲かせていました。

5日と6日は市民体育館で卓球の交流大会が開催され、第1体育室全面を使って、熱気に満ちたラリーの応酬がありました。

結果は、茨木が男女のシングルス、女子のダブルスと団体戦で、安慶は男子のダブルスと団体戦で優勝しました。

大会の合間、4日は京都観光で、嵐山、金閣寺、清水寺を訪れましたが、バスの中はカラオケで盛り上がり、愉快な小旅行となりました。

7日の神戸・大阪観光では、初めてサシミなどの日本食に挑戦、神妙な面持ちで口に運んでいました。

また、その夜にあった「さようならパーティー」には、茨木の出場選手達も参加し、めいめい持ち寄った記念品を交換し、記念写真をとり、和気あいの友好交歓がありました。

そして翌朝、宿舎の弁天宗をあとに、大阪南港へ向かい、おみやげと一杯の思い出で名残りもつきぬまま鑑真号に乗船、「再見」の言葉を残し、帰途につきました。



鑑真号で帰国



## 中国の人達との交流

北中3年 入江美幸

自分の視野がすごく広がったような気がしました。たくさんの人達との交流。とても良い思い出になりました。自分のまわりには、いろいろな考え方を持った人が大勢いることを、改めて知りました。

安慶市の選手は言葉が通じなくても、一生懸命私達の話を理解しようと努力してくれました。私達のまわりには、外国人だからといって、近寄ろうとしない人がたくさんいます。そんな中で、彼等の交流を深めようとする行動は、素晴らしいことだと思います。

国際社会といわれる現代。次代をになう私達が、このような機会に恵まれたことはすごく光栄でした。

今後も、たくさんの方が与えられると思いますが、物おじせずに、思い切って交流することで、本当の何かをつかめるような気がします。



中央図書館ロビーで

# ミネソタ州日本語村

## 本市から2名のカウンセラー参加



売店のキャビンで(著者左端)

日本語村は、「森の池」という名前にふさわしく、森と湖に囲まれた美しいところでした。

子供達は、ほとんどアメリカ人で、小学生から高校生まで約90人。カウンセラーをあわせると100人をこえる大所帯でした。

「森の池」では何もかもが日本流です。アメリカ人の子供達も、自分が選んだ日本名で生活します。なかには「のぶなが」「ひろひと」のような少しドキッとするのもありました。建物も地名もすべて日本語です。私は毎日、横浜、日光を通り、札幌美術館に通っていました。瀬戸小橋を渡って、久米島で野球をした後、オホーツク海で泳いだこともあります。

私は2週間、ろうけつ染めを教え、子供達はそれぞれ個性豊かなハンカチやTシャツを作りました。彼らから多くのことを教わり、常に新しいもの、より良いものへと動いていく姿勢が何事にも顕著なことに感心しました。(佐竹花恵)



日本芸能の仮装中(著者中央奥)

キャンプ場は、ミネアポリス市から車でおよそ5時間ほど北に行ったところで、夜になると天の川、時にはオーロラさえ見ることができました。この雄大な自然に囲まれた日本語村は、子供達が日本の文化・習慣・言葉を知るのに本当に適したキャンプ場でした。

いつでも日本語で話し、食事中は箸を使い、毎晩日本の風習や文化、いろいろな問題を取り入れたプログラムで、楽しみながら日本のことを学びました。私もこのキャンプを通じて、日本の良いところ、良い文化を知ることができました。

子供達とは、はじめ言葉のギャップがあり、正直言って苦労しましたが、ともに学び、遊んでいると、そのような苦労はいつの間になくなっていました。

最後の日、子供達が帰って行く姿を見て、少し寂しい気持ちになり、長いと思っていた1ヵ月が何と短かったかと思いました。(九万田忠孝)

### 姉妹都市活動室

英語力および国際感覚の向上をめざして、月2回、福祉文化会館(オークシアター)で、外国からのゲストを迎えて講演会や研究会などを英語で行っています。

- 〈例会〉 木曜会 第1木曜日午前10時  
土曜会 第3土曜日午後2時
- 〈会費〉 正会員 2,000円(18歳以上)  
準会員 1,000円(中・高校生)

W  
E  
L  
C  
O  
M  
E

### 青少年活動室

外国人ゲストと一緒に、楽しいゲームや会話を通して、英語と気軽に接してみませんか。中・高校生を中心としたミーティングで、楽しみながら英語に親しめるところがポイント。会費は無料です。

毎月原則として、第2日曜の午後2時から福祉文化会館(オークシアター)で開いています。友達と気軽にご参加下さい。





## ミ市文化協会が 俳句コンテスト

ミ市文化協会は、茨木からの訪問団のため会員が集まるほか、定期的に会合を持っています。

今年1月には新年祝賀会を開き、弁当を楽しみ、会議をし、太鼓の演奏を鑑賞しています。また、この時、日本の歌会始めにならない、「風」の題で短歌と俳句を会員から募集しました。

そして4月、本協会に優秀作品を選考してもらいたいと本協会姉妹都市委員会の井岡委員長宛、ミ市の成人・学生からの応募作品を送ってきています。以下のような作品です。

Leaves rolling in winds

Are finding their place in spring

Winds scatter them about

風に舞う木の葉が

春の中に自分の居場所を探している

風が木の葉を吹き寄せる

姉妹都市委員会では、英語俳句の専門家である吉村侑久代先生に翻訳と解説をお願いし、6月、文化部会を開催し、最優秀作品と入選作品6点を選びました。最優秀作品は下記に決定しています。

Musty morning mist:

Puddles reflecting dreamy

Scenes of pastel pinks

土が匂い立つような朝霧

水溜りがパステルピンクの

夢のような光景を映している

## 10月の訪問団報告 ミ市・安慶へ3団



次号で詳細にお伝えいたしますが、この10月にはミ市へ1団、安慶へ2団の訪問団が訪れています。

先ず、10月3日には茨木市友好訪中代表団一行9人が行政間交流のため、安慶市を訪問し、黄梅劇芸術祭開幕式や茨木・安慶児童書画展テープカットに出席しました。

5日には、茨木市人権交流訪問団一行11人が出発し、ミ市で人権問題について視察と研修を行い両市間の交流に新しい分野を加えました。

そして、7日には茨木市民謡民舞同好連盟を中心とした茨木市民親善訪中団一行21人が安慶市を訪れ、黄梅劇芸術祭に参加し、日本の民謡民舞の公演を行いました。

### 協会会員を募集

本協会では、姉妹・友好都市交流をはじめ国際親善に熱意を持っておられる方々の入会を心からお待ちしています。

〈会費(年額)〉 個人会員(一般) 2,000円  
(学生) 1,000円  
団体・法人会員 一口5,000円

〈申込先〉 協会事務局(市役所3階自治振興課  
国際交流係 ☎22-8121内線2143)

7月の本市機構改革に伴い、協会事務局の自治推進課は自治振興課と改称していますのでよろしくお願ひいたします。

## 平成4年度

# 協会総会の報告

本協会の平成4年度定期総会が5月開催され、昨年度の報告並びに今年度の事業計画、予算が審議されました。総会に先立ち理事会では、任期満了に伴う役員の改選があり、新会長に茨木市長の山本末男氏、副会長に上田秀一氏、樋口義明氏が選任されました。また、前会長重富敏之氏を名誉顧問に推す動議が出され、総会において規約改正を含めた新会長一任の決定があり、名誉顧問に就任されました。

重富氏は協会発足以来、会長として本協会の基礎を築き、ミネアポリス市などと姉妹・友好都市事業を発展させ、市民交流の育成に貢献されました。これまでのご努力に心から感謝申し上げます。



山本会長



重富名誉顧問

新会長の山本氏はこれまで協会参与を務め、また、茨木市助役として本市の国際化を推進してこられました。今後のご活躍を期待しております。

## 寄付

本市の国際交流事業の推進のためにと、次の方々から温かいご寄付をいただきました。ご好意に心からお礼申し上げます。(5月～10月、敬称略)

〈市へ〉7月 国際ゴルフ株式会社 (100万円)

8月 (宗) 辯天宗冥應寺 (120万円)



## 安慶市から

# 研修生 来る人、帰る人

友好都市・安慶市とは、今夏開催されたスポーツ交流大会をはじめ、さまざまな交流事業が活発に行われていますが、そのなかに安慶市の研修生招請事業があります。

本協会報17号ですでに紹介した安慶市外事弁公室周為民氏もその1人で、昨年8月から来茨し、本市市役所で行政研修を行いました。

1年間の滞在中、日本の地方行財政についての講義、庁内各課での実務研修、また民間企業と安慶市との経済交流の開拓など幅広い活動を行い、数多くの研修と経済活動の成果を得て、去る8月5日帰国しました。

農業研修生の田存傑氏は今年5月、来茨しています。田氏は、安慶市潜山県農業技術普及所長であり、最近潜山県に新設された「中日友好農場」の所長でもある、農業科学の専門家です。

来茨以来、友好都市委員会副委員長で専業農家の河原政夫氏宅(東福井三丁目)でホームステイしながら、稲作を中心に、トマト、ナス、スイカ、キュウリ、白菜、カブ、キャベツの栽培、機械の使用法、出荷包装、農薬の配合・撒布、病虫害の予防などを学んでいます。

また、日本社会をより知るため、高野山などを訪れ、夏には甲子園で高校野球を楽しんでいます。

そして、安慶市から訪問団が来茨した時には、必ず同行し、郷里の人々と日本訪問の感想や行事の楽しさを分かちあっています。滞在はやはり1年間で、来年5月帰国の予定です。



▲街頭で研修中の周 為民氏  
▼カブ栽培を研修中の田 存傑氏

